

A photograph of a person in a grey hoodie and jeans standing on a rocky ledge, holding a smartphone to take a picture of a river flowing through a deep canyon. The river is surrounded by steep, rocky cliffs and lush green vegetation on the upper slopes. The scene is brightly lit, suggesting a sunny day. In the background, another person is visible standing on a rocky area near the river.

里川の空間特性と 居住者評価に関する研究

大分大学工学部福祉環境工学科
建築コース・都市計画研究室

(担当教員) 佐藤誠治
池田 壮志

目次

第1章 序論

本研究の背景と目的

第2章 里川集落における平面的構造の把握

里川集落のデータ構築

第3章 現地調査対象集落の物理評価

里川集落の特性把握

第4章 現地調査対象集落の河川景観の心理評価

第5章 里川モデル

里川集落のモデル

第6章 総括

課題



目次

第1章 序論

本研究の背景と目的

第2章 里川集落における平面的構造の把握

第3章 現地調査対象集落の物理評価

第4章 現地調査対象集落の河川景観の心理評価

第5章 里川モデル

第6章 総括

○本研究の背景と目的

原生的自然環境の保全
生物多様性の保全
破壊
人間と自然との共生社会

里地・里山
SATOYAMAイニシアティブ

里川
河川環境の保全・再生

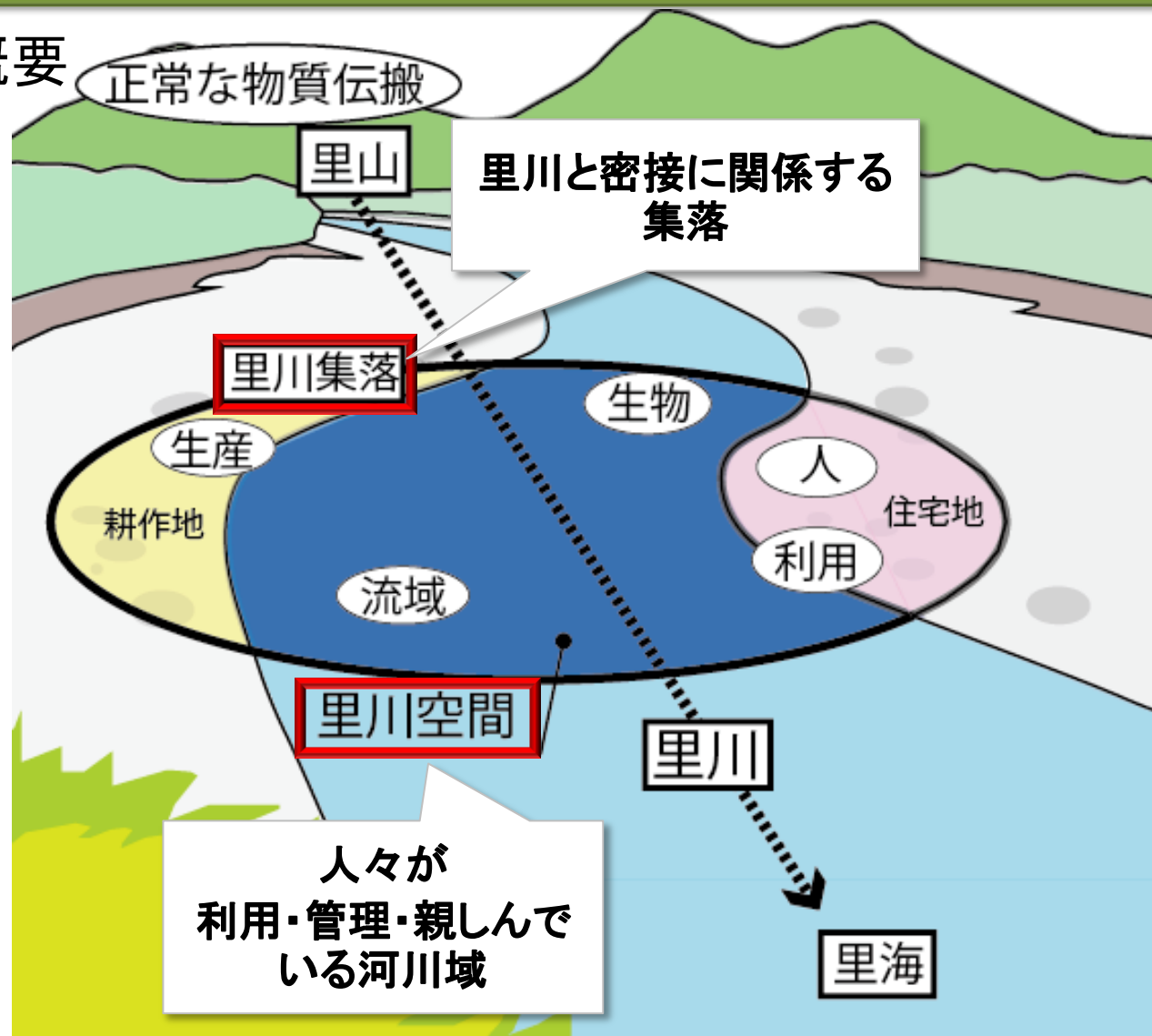
課題

地域住民が抱く景観の原風景や個性に配慮した河川整備が進んでいない

里川の定義を明確化
河川環境を維持・保全するための方向性を見出す

川に背を向けて生きる現代人に、
再び川と向き合っていけるような里川づくりの礎にしたい

○里川の概要



『総体的に人々の暮らしが河川と深く関わり、
人間の手で河川環境が維持管理されている河川』

○本稿の目的

里川のモデルを導く

- ①「集落と河川距離」 ②「水面から護岸天端までの高さ」
「河川利用が多い集落」として抽出された16集落
「里川集落の要素が強い集落」

この16集落の現地調査結果
物理評価 心理評価

物理評価, 心理評価の結果
里川のモデルを導く

目次

第1章 序論

第2章 里川集落における平面的構造の把握

里川集落のデータ構築

第3章 現地調査対象集落の物理評価

里川集落の特性把握

第4章 現地調査対象集落の河川景観の心理評価

第5章 里川モデル

第6章 総括

○物理評価 目的・方法

16集落を**里川集落の代表集落**として扱う

9個の**物理指標**にそれぞれ**基準を定め**, それをもとに評価し,
得点をつける

合計得点から**評定平均**を出し総合評価

「**河川利用が多い集落**」の物理的特性をより詳細に把握

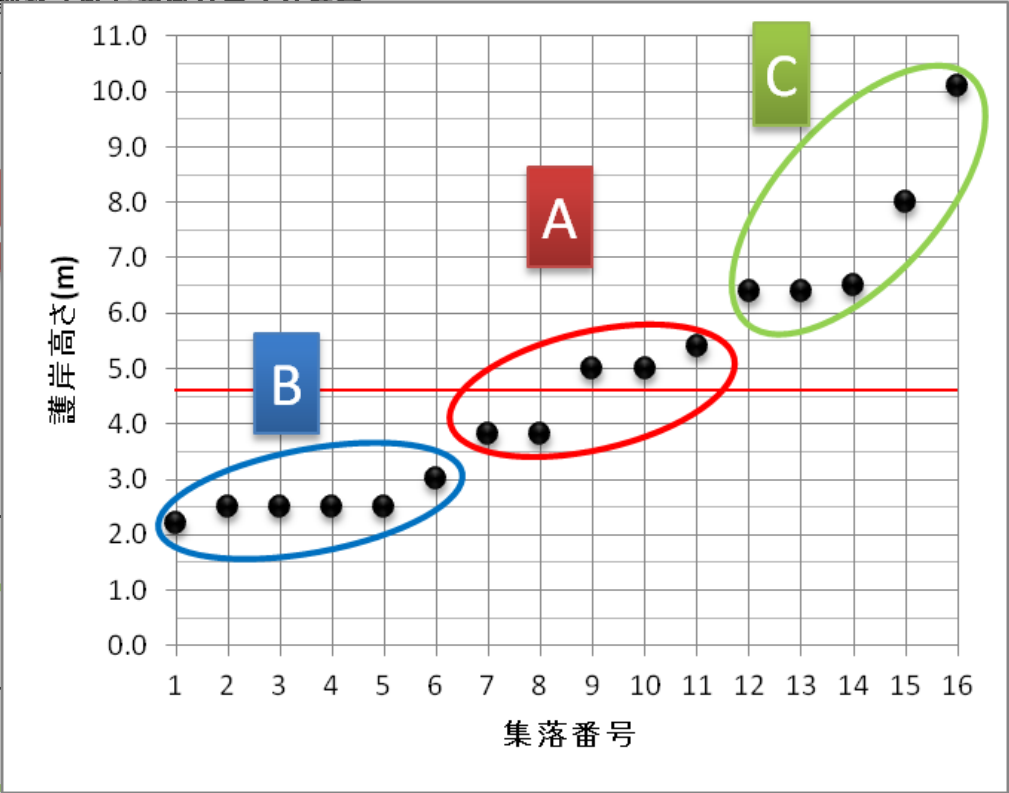
最終的に**里川の断面モデル**を作成

4. 護岸高さ

16集落は里川集落の代表集落として扱うため、
護岸高さは16集落の平均値を基準値とした
この基準値に近い順にA・B・Cグループに分類することで
値に幅を持たせ、
Aグループ3点、Bグループ2点、Cグループ1点として
得点配分を行った

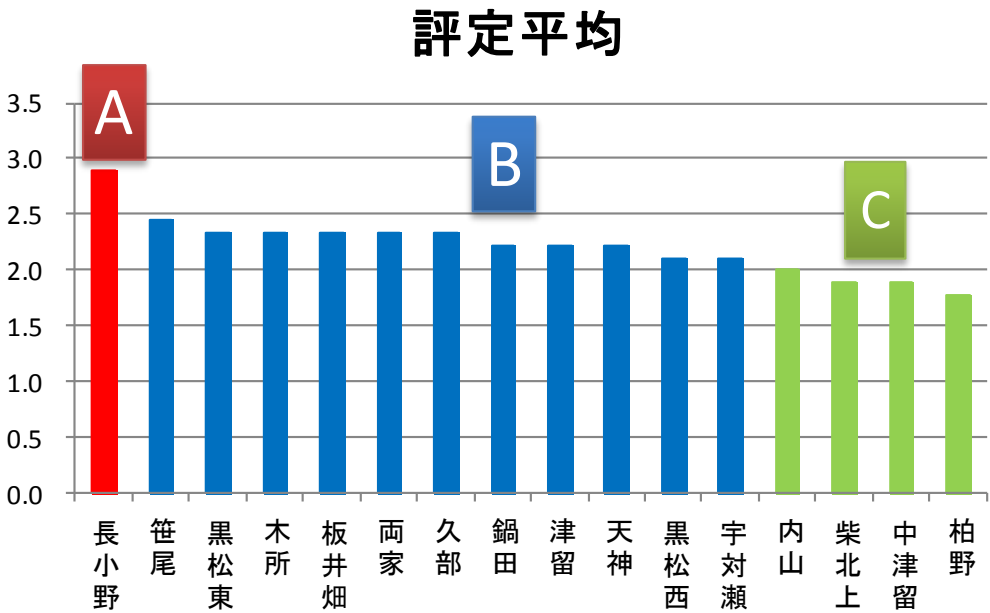
Ward 法を使用するデンドログラム

集落番号	集落名	護岸高さ(m)	評価	得点
1	黒松東	2.2	B	2
2	黒松西	2.5	B	2
3	両家	2.5	B	2
4	天神	2.5	B	2
5	内山	2.5	B	2
6	板井畑	3.0	B	2
7	久部	3.8	A	3
8	笹尾	3.8	A	3
9	津留	5.0	A	3
10	長小野	5.0	A	3
11	鍋田	5.4	A	3
12	柴北上	6.4	C	1
13	中津留	6.4	C	1
14	木所	6.5	C	1
15	柏野	8.0	C	1
16	宇対瀬	10.1	C	1
平均値		4.7		

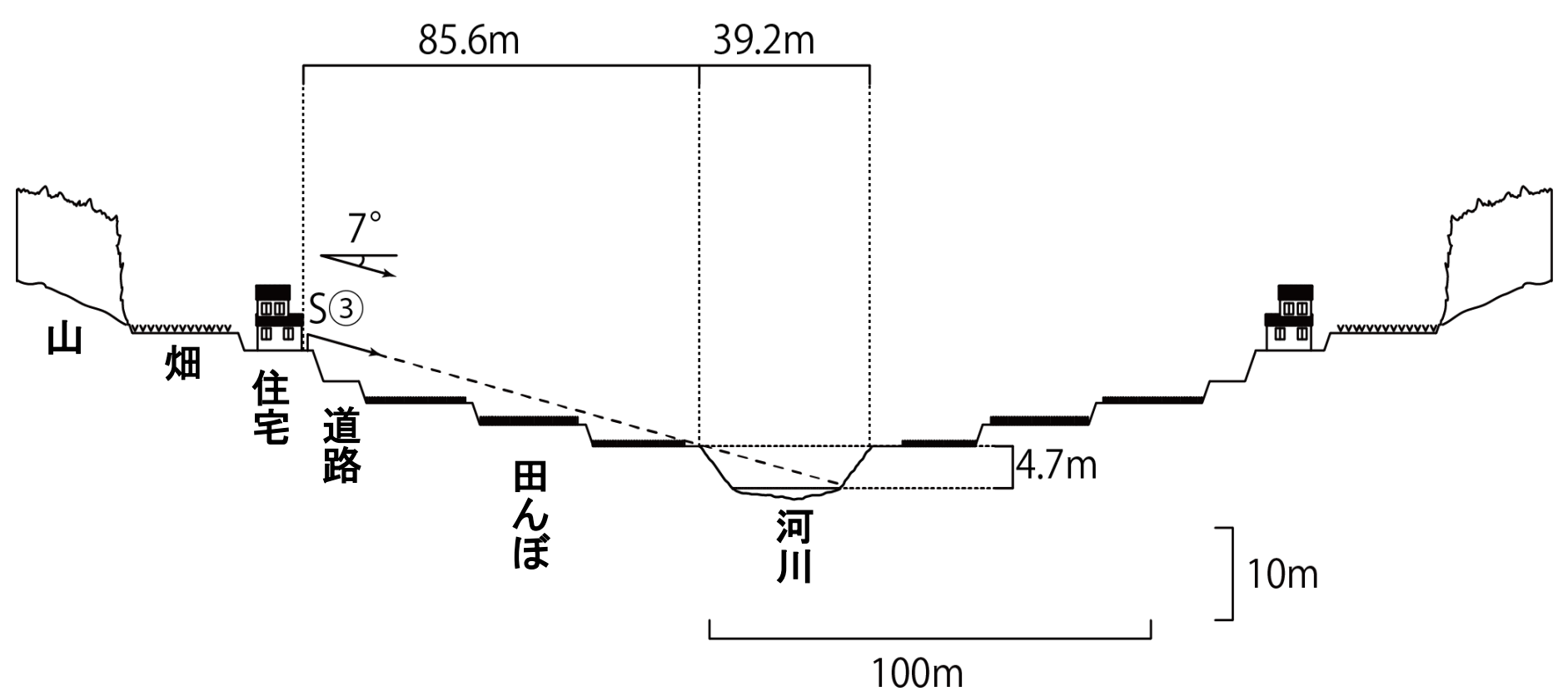


○総合評価

順位	集落名	合計得点	評価平均	総合評価
1	長小野	26	2.9	A
2	笹尾	22	2.4	B
3	黒松東	21	2.3	B
3	木所	21	2.3	B
3	板井畑	21	2.3	B
3	両家	21	2.3	B
3	久部	21	2.3	B
8	鍋田	20	2.2	B
8	津留	20	2.2	B
8	天神	20	2.2	B
11	黒松西	19	2.1	B
11	宇対瀬	19	2.1	B
13	内山	18	2.0	C
14	柴北上	17	1.9	C
14	中津留	17	1.9	C
16	柏野	16	1.8	C



〇里川の断面モデル



集落名	河畔林	護岸主要素	水面までの不可視深度(m)	護岸高さ(m)	護岸角度(度)	集落と河川との距離(m)	河道幅(m)	水面幅(m)	最深部(cm)
基準・基準値	無	自然護岸・石積	-0.4	4.7	49.6	118.2	39.2	24.8	120.4
モデル	無	自然護岸・石積	0.0	4.7	32.0	85.6	39.2	24.8	120.4

○心理評価 目的

16集落の中から

正規化順位法を用いて
最も里川景観と
現地調査対象集

調査を行うにあ

これらの結果を
ふさわしい要素
里川の空間的特

河川景観 心理評価

① お名前
()

② 性別
(男性・女性)

③ 年齢
(歳)

④ 現在の居住地(例 大分県大分市)
()

⑤ 出身地(例 福岡県福岡市)
()

⑥ 川遊びの経験
(有 ・ 無)

⑦ 里川とは「総体的に人々の暮らしが河川と深く関わり、人間の手で河川環境が維持管理されている河川」です。
A～Kの10枚の写真を里川にふさわしいと思う順に順位づけをしてください

1 位 ()	6 位 ()
2 位 ()	7 位 ()
3 位 ()	8 位 ()
4 位 ()	9 位 ()
5 位 ()	10 位 ()

⑧ 1 位を選択した理由

⑨ 10 位を選択した理由

御協力、誠にありがとうございます

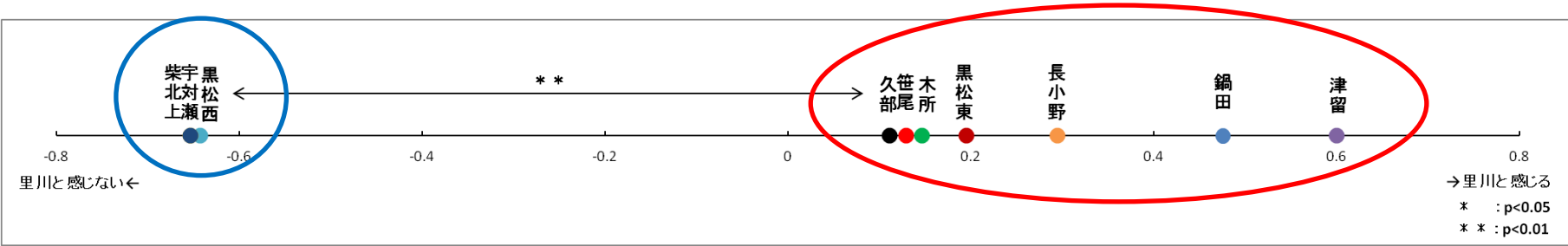
きた10集落

験者に調査

配布

呈

○評価結果



○心理評価と物理評価の比較

グループ	河畔林	護岸主要素	水面までの不可視深度(m)	護岸高さ(m)	護岸角度(度)	集落と河川との距離(m)	河道幅(m)	水面幅(m)	最深部(cm)
A	無	自然護岸	-0.4	4.5	35.1	139.6	35.2	19.8	120.9
B	無	コンクリート	2.5	6.3	52.0	103.1	62.3	38.4	160.0
基準・基準値	無	自然護岸・石積	-0.4	4.7	49.6	118.2	39.2	24.8	120.4
基準・基準値に近いグループ	A B	A	A	A	B	B	A	A	A

集落名	心理評価	心理評価順位	物理評価	物理評価順位
津留	A	1	B	8
鍋田	A	2	B	8
		3	A	1
		4	B	3
		5	B	3
		6	B	2
久部	A	7	B	3
黒松西	B	8	B	11
宇対瀬	B	9	B	11
柴北上	B	10	C	14

物理評価が高い集落は
心理評価も高い評価

里川にふさわしい要素

「河川までのアクセスが容易にできる」

「河川の水面がよく見え流れが良い」

「河川の近くに田んぼや畑ある」

「自然護岸である」「瀬や淵がある」

人が関わりやすく、生態系が守られているような

「人と河川とのつながりが感じられ豊かな自然環境を保った河川」

里川にふさわしくない要素

「河道幅や水面幅が大きすぎる」

「河川までアクセスが容易にできない」

「護岸整備が行われ人工的だが河川内に草が多く茂り

管理が行き届いてない」

「人の手が全く加えられていない原始的な河川」

人が関わりにくいような

「人と河川とのつながりが感じられず近寄りがたい河川」

目次

第1章 序論

第2章 里川集落における平面的構造の把握

第3章 現地調査対象集落の物理評価

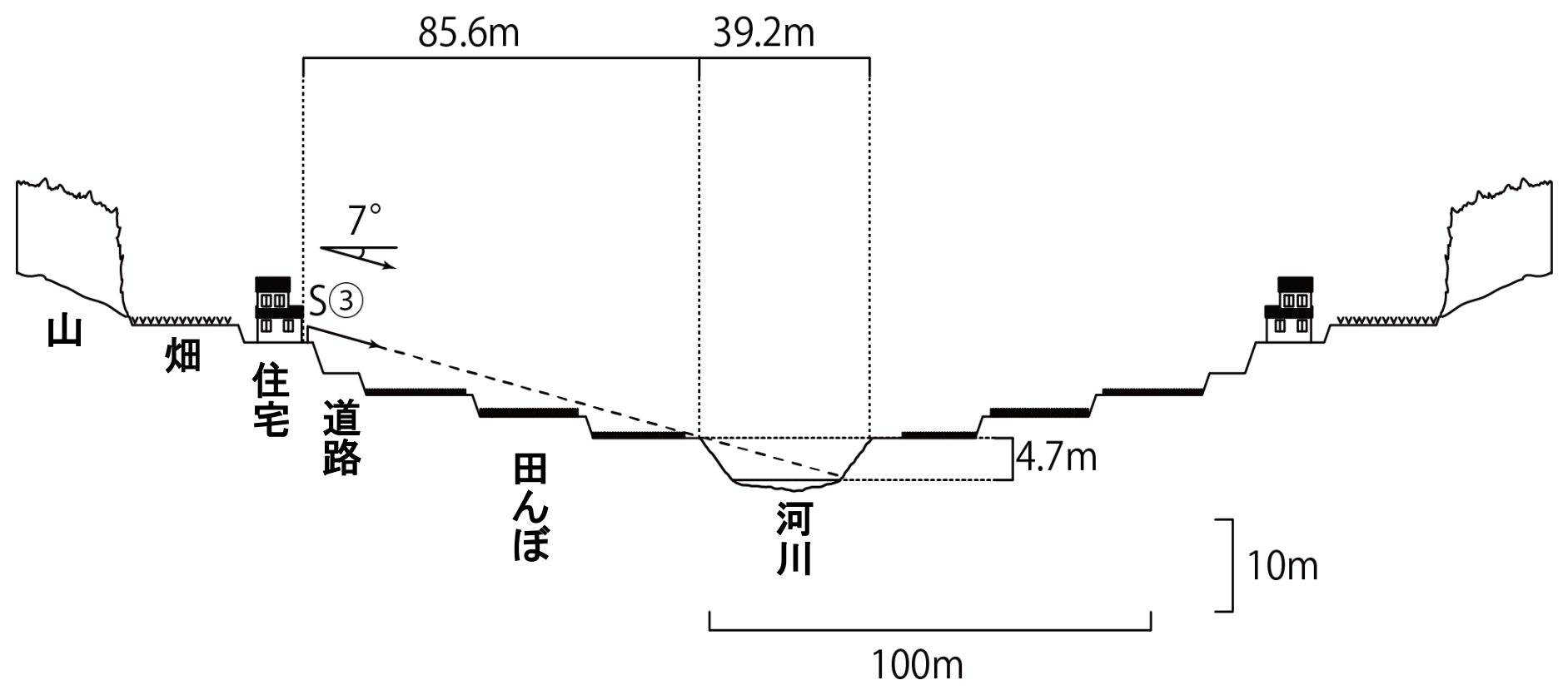
第4章 現地調査対象集落の河川景観の心理評価

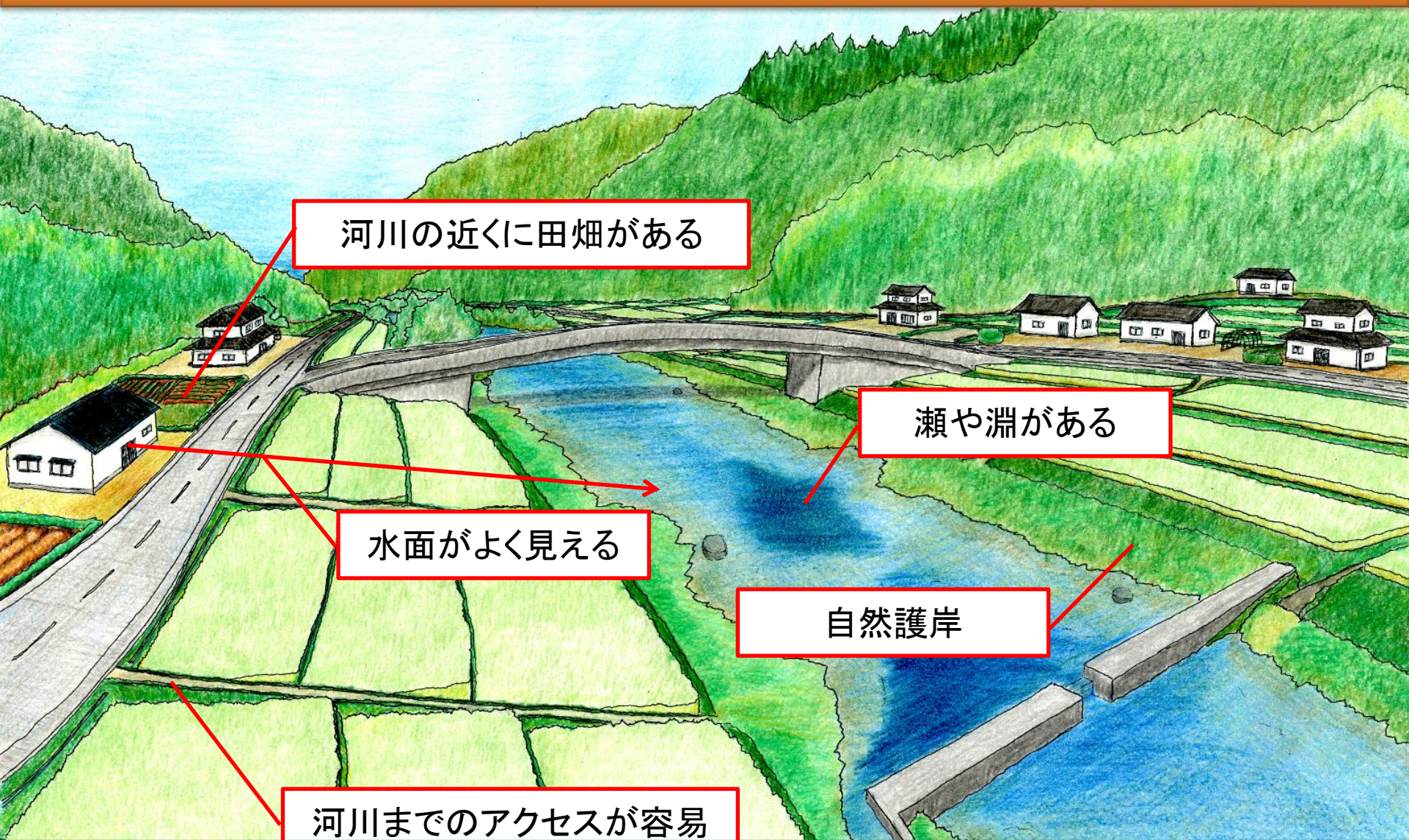
第5章 里川モデル

里川集落のモデル

第6章 総括

○里川の断面モデル





「人と河川とのつながりが感じられ
豊かな自然環境を保った河川」

目次

第1章 序論

第2章 里川集落における平面的構造の把握

第3章 現地調査対象集落の物理評価

第4章 現地調査対象集落の河川景観の心理評価

第5章 里川モデル

第6章 総括

課題

○総括

本稿では一連の本研究より抽出された「河川利用が多い集落」である16集落において物理評価と心理評価を行い、「河川利用が多い集落」のより詳細な空間的構造を把握し、最終的に里川のモデルを作成した

課題として

物理評価において16集落に絞って評価を行ったため、
集落のサンプルデータ量が少ないこと

心理評価においては撮影場所、撮影方法によって結果が左右されること

全体を通して

本稿の里川のモデルは調査対象集落に限った結果の中で作成したものであり、より現代の生活に合わせた里川のスタイル、モデルを作成するためには農業以外の関わり方で河川空間と共生する地域の分析も必要であると考え



ご清聴
ありがとうございます

